

2025 年 5 月 16 日

各位

株式会社大川原製作所
代表取締役社長 大川原行雄

中期経営計画に基づく DX 戦略について

1. はじめに

当社は 1927 年の創業以来、「わが社は最新の理論と最高の技術を駆使し、最秀にして廉価で確かな製品を作ろう。そうして、われわれは会社の成長と社員の生活向上をなし続け、平和で豊かで健全な社会づくり、科学と自然の調和した次代文化のさきがけとなろう」という創立の精神の下、乾燥技術を原点として、食品・化学・医薬・環境の分野において、お客様の事業価値を高め、社会の発展に貢献してまいりました。

この創業の精神を未来へと繋ぎ、お客様の更なる事業価値向上に貢献するため、長年の事業活動で蓄積したノウハウや知識、試験や開発などの各種実績、データを最大限に活かす「社内データの一元管理」と、最適な品質、納期、コストの実現による生産力向上を目指した「生産体制の見直し、再構築（基幹システム刷新）」をデジタル技術活用により強力に推し進めてまいります。

この「社内データの一元管理」「生産体制の見直し、再構築（基幹システム刷新）」は中期経営計画（2025～2027 年）における全社横断の重点戦略（DX 戦略）と位置づけ、推進してまいります。

2. DX 戦略及び推進体制

① 社内データの一元管理について

納入装置仕様の詳細やメンテナンス履歴、原価実績や購入見積、試験実績など（上記はあくまで例として）を一元管理し、横断的にアクセスできる仕組みを構築し、必要なデータを迅速かつ確実に収集できる仕組みをつくる。

また、完成図書等紙で保存されているものについては、電子化保存へ変更する。

スケジュール : 2025 年 一元管理情報の決定、管理方法（システム化/AI 検索など）決定

2026 年 管理方法決定に基づき、導入

実行・進捗管理 : 中期経営計画推進委員会

責任者、取締役副社長

メンバー、全取締役および情報システム課

達成指標 : 中期経営計画目標数値達成

② 生産体制の見直し、再構築

基幹システム刷新プロジェクト

2009 年に導入した基幹システムは、システム更新による業務停滞を避けるべく、従来の生産管理システムを踏襲したため、フルカスタマイズされており、連携機能がつぎはぎのシステムとなっている。本プロジェクトではこの問題を解決し、業務プロセスの最適化を図り、業務効率の向上を実現することを目的としている。

スケジュール : 2025 年要件定義、2026 年概要設計終了
2027 年システム構築完了、2028 年システム運用開始
実行・進捗管理 : 基幹システム刷新プロジェクト
責任者、取締役副社長および専務取締役
リーダー、情報システム課長
メンバー、組織横断で選出された社員
達成指標 : ・中期経営計画目標値達成
・基幹システムに関する管理、保守コストの削減
・DX 活用（業務効率化）による労働時間の削減

③ 社員教育

社内の IT 人材育成のため、社員教育（RPA/生成 AI 等）を行う。

スケジュール : 2025 年計画実施

実行・進捗管理 : 情報システム課

3. DX 戦略推進体制

株式会社大川原製作所代表取締役社長及び取締役副社長を統括責任者、情報システム課長を実務責任者とし、DX 戦略を進める。

4. システムの運用管理体制

社内システム（部門内システムの管理は部門ごと）の運用管理は情報システム課が行う。

また 2025 年はサイバーセキュリティ対策についての施策を進め、セキュリティーポリシーについての整備行う。

5. （補足）前年実績

① 受注管理～出荷～入金までのワークフローを、システム化+RPA で自動化

実績 : 1,600 時間/年 削減（作業単位での業務時間抽出により、削減時間を抽出）

② 資材管理システム導入

実績 : 730 時間/年 削減（受注 1 件あたりの資材探し時間から過去 3 年の受注件数より算出）

③ ワークフローシステム導入

④ 社員教育

RPA 研修 : 社員より選抜メンバーにて受講

実績 : 名刺管理システムから kintone へのデータ連携を RPA 化

以上